

- 十三 檢疫官心得
- 十四 消毒法心得
- 十五 船舶消毒法須知
- 十六 同 追補
- 十七 蒸溜消毒電試驗報告
- 十八 消毒所案内

以上項目中十三ヨリ十六ニ至ルハ檢疫開設ノ期日切迫ノ際所員參照ノ爲メニ部内限リ頒布ノモノニ係ル
 消毒所案内臨時陸軍檢疫部ニ於テ十數万枚ヲ印刷シ運輸通信部ヲ經テ各出
 戰軍隊ニ配布シタルモノナリ

朕臨時陸軍檢疫部官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十八年三月三十日

内閣總理大臣伯爵 伊藤博文
 陸軍大臣伯爵 山縣有朋

勅令第三十三號

臨時陸軍檢疫部官制

第一條 臨時陸軍檢疫部ハ陸軍大臣ノ監督ニ屬シ傳染病ヲ豫防スル爲メ地方官ト相待テ戰地ヨリ歸航スル船舶ノ檢疫ヲ施行ス

第二條 臨時陸軍檢疫部ニ左ノ職員ヲ置ク

- 一 部長
- 二 事務官
- 三 書記

部長ハ陸軍將官事務官ハ陸軍上長官士官書記ハ下士ヲ以テ之ニ充ツ但事務官及

書記ハ必要ノ場合ニ於テ他ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得
他ヨリ任用スル事務官ハ奏任書記ハ判任トス

第三條 前條職員ノ外技術家ヲ囑託スルコトヲ得

第四條 部長ハ陸軍大臣ノ指揮ヲ受ケ部内ノ事務ヲ管理ス

第五條 事務官ハ部長ノ指揮ヲ受ケ部務ヲ掌ル

第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ従事ス

第七條 檢疫施行ノ方法及檢疫所ノ位置ハ陸軍大臣之ヲ定ム

陸軍省令第六號

臨時陸軍檢疫部檢疫規則左ノ通定ム

明治二十八年四月二十六日

陸軍大臣伯爵 山縣有朋

臨時陸軍檢疫部檢疫規則

第一章 臨時陸軍檢疫部職制

第一 臨時陸軍檢疫部長ハ事務官以下ヲ指揮シ各臨時陸軍檢疫所ノ業務ヲ監督シ

陸軍檢疫一切ノ事務ヲ擔任ス

第二 臨時陸軍檢疫部長ハ事務官以下ノ職員召集若クハ差遣又ハ部外ニ交渉シ檢疫事務ノ完行ヲ期スヘキモノトス

第三 臨時陸軍檢疫部長ハ必要ニ應シ傭人ヲ使用スルコトヲ得

第四 臨時陸軍檢疫部ニ事務官長及左ノ四課ヲ置キ事務ヲ分掌セシム

檢疫課

庶務課

會計課

建築課

第五 事務官長ハ部内一切ノ事ヲ管知シ部長ノ命ヲ承ケ檢疫方法ヲ計畫シ部内事務ノ整理ニ任シ且ツ部長事故アルトキ又ハ部長ノ委任ヲ受ケ成規定例アルモノハ部長ニ代リテ之ヲ處理ス

事務官長ハ各部團隊及諸官衙ニ對シ其名ヲ以テ文書ノ往復ヲ爲スコトヲ得

第六 各課長ハ事務官ヲ以テ之ニ充テ其下ニ事務官書記雇員及傭人並ニ囑託若干

名ヲ置ク

第七 檢疫課ハ陸軍々用ノ検査消毒隔離所並ニ避病院ニ關スル事項ヲ掌ル

第八 庶務課ハ官印ヲ管守シ文書ノ往復人事記録ノ事項ヲ掌ル

第九 會計課ハ金錢物品ノ出納諸帳簿ノ整頓並ニ各般證書ノ調査ニ關スル事項ヲ掌ル

第十 建築課ハ檢疫ニ關スル土木工事ノ設計及土木監督ニ關スル事項ヲ掌ル

建築課中ニ機關掛ヲ置キ汽罐器械及電工ニ關スル事項ヲ掌ラシム

第十一 檢疫執行ノ爲メ必要ニ應シ各地ニ臨時陸軍檢疫所ヲ置キ各其地名ヲ冠セシム

第十二 各臨時陸軍檢疫所長ハ事務官ヲ以テ之ニ充テ其下ニ事務官書記雇員及備人並ニ囑託ヲ置ク

第十三 各臨時陸軍檢疫所ニ於テ直接ニ檢疫實務ニ服スル事務官及醫師ヲ檢疫官ト稱シ其他職員ヲ所員ト稱ス

檢疫官ハ紅藍二色所員ハ紅色ノ徽章ヲ右肩ヨリ左腋ニ佩フ

第十四 各臨時陸軍檢疫所ニハ各師團ヨリ下士以下若干名ヲ分遣シ檢疫消毒並ニ隔離ノ事ニ從ハシメ且ツ所内ノ取締ヲナサシム

第十五 前條ノ分遣下士兵卒ハ分遣中臨時陸軍檢疫部長ノ管轄ニ屬シ檢疫所長ノ指揮ニ從ハシム其取扱ハ總テ諸學校分遣ノ下士兵卒ニ同シ

第二章 臨時陸軍檢疫會議

第十六 臨時陸軍檢疫部ニ臨時陸軍檢疫會議ヲ設ケ傳染病豫防方法ヲ審議セシム

第十七 臨時陸軍檢疫會議ハ左ノ人員ヲ以テ組織ス

議長

商議員

書記

議長ハ臨時陸軍檢疫部長ヲ以テ之ニ充ツ部長事缺アルトキハ事務官長ヲシテ代理セシム

商議員若干名ハ醫師中學識經驗アルモノヲ選ミ陸軍大臣之ヲ囑託ス

臨時陸軍檢疫部事務官一人若クハ二人陸軍省醫務局ノ上長官一人ヲ選ミ之ニ商
議員ヲ命ス

陸軍省醫務局長ハ何時タリトモ此會議ニ臨席シ意見ヲ陳スルコトヲ得
書記二名臨時陸軍檢疫部書記ヲ以テ之ニ充ツ

第三章 船舶検査及消毒法

第十八 臨時陸軍檢疫部ニ於テ陸軍軍用船竝ニ大本營ノ許可ヲ得テ占領地ニ航行
スル船舶ニ對シ檢疫ヲ施行スヘキ傳染病ハ左ノ六種トス

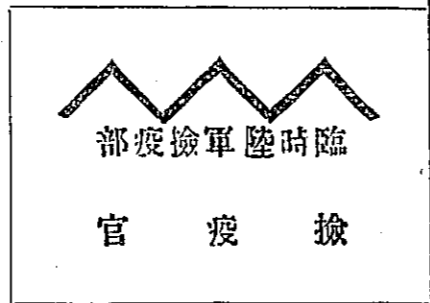
虎列刺病 腸窒扶斯 赤痢 發疹窒扶斯 痘瘡 黑死病

但黑死病檢疫ハ虎列刺發疹窒扶斯ニ準スヘシ

第十九 陸軍軍用船竝ニ大本營ノ許可ヲ得テ占領地ニ航行スル船舶ハ臨時陸軍檢
疫所ニ於テ檢疫官ノ臨檢ヲ受ケ其許可ノ證書ヲ得タル後ニ非ラサレハ港灣ニ進

航シ陸地又ハ船舶ト交通シ及乗船人員ノ上陸竝ニ積荷ノ陸揚ヲ爲スヘカラス

第二十 檢疫官ノ乗込タル船舶ニハ左ノ旗章ヲ掲揚スヘシ



第二十一 檢疫官ニ於テ書式ノ明告書ヲ渡シタルトキハ船長若クハ乗込醫員ハ右
條件ヲ列記シ署名捺印シテ之ヲ檢疫官ニ返付スヘシ若シ輸送指揮官監督將校乘
込ミタルトキハ各其責任ヲ以テ連署證明スヘシ隊附醫官本隊ト共ニ乗込ミタル
トキニ於テモ亦同シ

第二十二 傳染病患者若クハ該病死者アル船舶又會テ該病患者若クハ死者アリタ
ル船舶ニ於テハ船長若クハ乗込醫員ノ立會ヲ以テ該病汚染ノ疑アル被服携帶
品等ヲ検査シ之ヲ燒棄若クハ消毒スヘシ且ツ必要ノ場合ニハ船舶ノ一部若クハ

其全部ニ消毒法ヲ施行スヘシ

第二十三 船舶内ニ傳染病患者若クハ死者アルトキハ其患者ハ之ヲ避病院ニ送付シ傳染病ノ疑アル患者ハ之ヲ疑症室ニ送付ス該病ノ死者ハ消毒ノ上之ヲ火葬シ若クハ埋葬セシムヘシ

其死亡證書遺骨其他遺物ノ處置ハ制規ニ隨ヒ取扱フヘシ

第二十四 軍役人夫竝ニ大本營ノ許可ヲ得テ占領地ニ航行スル船舶ニ便乗スルモノハ消毒ヲ了リタル後檢疫所内ノ停留舎ニ五日間宿泊セシメ病毒潜伏ノ虞ナキニ至リ退舎セシムヘシ

第二十五 船舶内ノ積荷ニシテ傳染ノ虞アリト認ムルモノハ所定ノ消毒ヲ施シタル後ニ非ラサレハ他所ニ輸送スルヲ許サス

第二十六 傳染病患者若クハ該病死者アル船舶ハ之ヲ處置シ且ツ消毒ヲ了リタル後五日間ヲ經テ新患者ナキモノニ非ラサレハ人員若クハ荷物ヲ搭載シ又ハ他ノ港灣ニ進航スルコトヲ許サス

但該病患者ヲ他ニ移シ若クハ死者ヲ葬ムルノ後已ニ五日間ヲ經タル船舶ハ消

毒後直ニ人員竝ニ荷物ヲ搭載シ且ツ他ノ港灣ニ進航スルコトヲ許スヘシ

第二十七 傳染病流行地方ヨリ來著シ又ハ其流行地ヲ經過シ又ハ其病毒ニ汚染セシ船舶ト交通シタル船舶ハ檢疫官ノ必要ト認ムルトキハ指定ノ場所ニ隔離碇泊ヲ命シ消毒ヲ施行スヘシ

第四章 船舶ノ入港及出港

第二十八 船舶入港ノ際虎列刺患者若クハ該病ノ死者ヲ搭載シタル船舶ハ前檣頭ニ黃旗ヲ掲ケ日没ヨリ日出迄ハ紅白ノ二燈ヲ連掲シテ港外ニ止リ檢疫官ノ指揮ヲ待ツヘシ

發疹窒扶斯痘瘡黒死病ニ於ケルモ亦同シ

第二十九 消毒上必要トシテ檢疫停船又隔離碇泊ヲ命セラレタル船舶ハ檢疫官指定ノ場所ニ投錨シ陸地又ハ港内ノ諸船舶ニ交通スルヲ許サス
檢疫停船ノ時間ハ五日間以上トス

第三十 前條ノ船舶軍事上必要ニシテ止ムヲ得サル場合ニ於テハ消毒濟ノ日直ニ出港スルコトヲ許ス但船中ニ人員竝ニ荷物ヲ搭載スルヲ許サス

航海中五日間以上經過シ其間發病者ナキ時ハ著港ノ上人員及物品ヲ搭載スルコトヲ得

第三十一 第二十八條ニ掲グルモノ、外陸軍檢疫所アル港内ニ入り檢疫ヲ受クヘキ船舶ハ其地陸軍檢疫所々定ノ隔離碇泊區域内ニ繫留シテ檢疫官ノ指揮ヲ侍ツヘシ

臨時陸軍檢疫所及同所避病院職務規程別冊之通相定ム

明治廿八年七月七日

臨時陸軍檢疫部長 兒玉源太郎

臨時陸軍檢疫所職務規程

第一 所長ハ所屬事務官以下ヲ指揮シ並ニ避病院ヲ監督シ檢疫所内全般ノ事項ヲ掌理シ部長ニ對シ其責ニ任ス

第二 所長ハ所屬事務官以下ニ所務ヲ分掌ヲ命ス

第三 所長ハ要急アル場合ニ於テ事務官ヲ差遣スル要アルハ部長ノ聽許ヲ經ヘシ書記以下ハ所長ニ於テ之ヲ差遣スルヲ得

第四 所長事故アル時ハ首席ノ事務官其職務ヲ代理スヘシ

第五 檢疫所ニ左ノ各科及停留舎ヲ置ク

一 總務科

二 船舶檢査科

三 運搬科

四 藥物消毒科

五 熱氣消毒科

六 燒却科

七 沐浴科

八 船舶消毒科

九 停留舎

第六 總務科長ハ所長ヲ以テ之ニ充ツ部下ヲ指揮シテ其事務ヲ掌理ス

第七 總務科ニ庶務掛會計掛展望所及電機掛ヲ置ク

第八 總務科庶務掛ハ所内取締文書報告人事其他各科ニ屬セサル事項ヲ掌ル

- 第九 總務科會計掛ハ俸給其他諸給與及物品買辦物品會計並ニ金錢ニ關スル諸契約人夫雇入等ノヲ掌ル
 - 第十 總務科展覧所ハ港内船舶ノ發着ニ注視シ必要ノ場合ニハ之ヲ船舶検査科ニ通報スルヲ掌ル
 - 第十一 總務科電機掛ハ所内電信電話及電燈並其修補ニ關スルヲ掌ル
 - 第十二 船舶検査科運搬科藥物消毒科熱氣消毒科燒却科沐浴科船舶消毒科及停留舎ノ分掌事務ニ關シテハ臨時陸軍検査手續ニ定ムル所ニ據ル
 - 第十三 數料交渉ノ事項ハ本規程ノ定ムル所ニ據リ其關係大ナル科ノ主任者主トナリ他科ノ主任ニ合議スヘシ
 - 第十四 定例ニ依リ報告スル事項ノ外報告ノ必要アルモノハ其時々所長ヨリ部長ニ申報スヘシ
- 臨時陸軍検査所避病院職務規程
- 第一 院長ハ検査所長ノ監督ヲ受ケ所属事務官以下ヲ指揮シ避病院内全般ノ事項ヲ掌理ス

- 第二 院長ハ所屬事務官以下ニ院務ノ分掌ヲ命ス
- 第三 院長ハ要急アル場合ニ於テ事務官以下ヲ差遣スル要アルハ部長ノ(所長ヲ)聽許ヲ經ヘシ書記以下ハ院長ニ於テ直ニ之ヲ差遣シ然ル後ヲ所長ニ申報スヘシ
- 第四 院長事故アルハ首席ノ事務官其職務ヲ代理スヘシ
- 第五 避病院ニ左ノ各室及藥局ヲ置ク
 - 一 事務室
 - 二 避病室
 - 三 疑症室
 - 四 快復室
 - 五 藥局
- 第六 事務室ハ院長直ニ部下ヲ指揮シテ其事務ヲ掌理ス
- 第七 事務室ニ庶務掛及會計掛ヲ置ク
- 第八 事務室庶務掛ハ院内取締文書報告人事其他各室ニ屬セサル事項ヲ掌ル
- 第九 事務室會計掛ハ俸給其他諸給與及物品買辦物品會計並ニ金錢ニ關スル諸契約

約人夫雇入等ノ下掌ル

第十 避病室ハ虎列拉腸室扶斯赤痢發疹室扶斯痘瘡及黑死病ノ六區ト爲シ患者ノ收容死體其他物品消毒ノ下掌ル

第十一 疑症室ハ前項傳染病ノ疑症患者ニ關スル下掌ル

第十二 快復室ハ第十一項傳染病患者ノ快復期ニ至リ病毒傳染ノ虞ナキモノニ關スル下掌ル

第十三 藥局ハ調劑並藥品器械及其出納ニ關スル下掌ル

第十四 敷室交渉ノ事項ハ本規定ノ定ムル所ニ據リ其關係大ナル室ノ主任者主トナリ他室ノ主任ニ合議スヘシ

第十五 定例ニ依リ報告スル事項ノ外報告ノ必要アルモノハ部長ニ申報スヘシ

陸達第四十號

臨時陸軍檢疫手續左ノ通定ム

陸軍大臣伯喬山縣有朋代理

明治廿八年五月廿七日 陸軍次官 兒玉源太郎

臨時陸軍檢疫手續

第一條 檢疫ノ實務ハ左ノ各科ニ於テ分擔スヘシ

船舶検査科

運搬科

甲 未消毒

乙 既消毒

藥物消毒科

甲 未消毒

乙 既消毒

熱氣消毒科

甲 未消毒

乙 既消毒

燒却科

沐浴科

甲 點檢所

乙 物品預所

丙 待合室

附 理髮室

丁 浴室

戊 休息室

己 着衣室

庚 物品渡所

船舶消毒科

附 檢疫所内消毒

停留舍

第二條 船舶檢査科ニ於テ船舶ヲ檢査スヘキ順序ハ左ノ如シ

一 明治廿八年陸軍省令第六號第十八ニ該當スヘキ船舶ニシテ戰地ヨリ臨時陸軍

檢疫所アル港内ニ來着スルトキハ檢疫官其船舶ニ到リ該省令第廿一ノ明告書(第一號書式)ヲ受取り尙必要ノ件ハ之ヲ船長及其明告書ニ連署ノ義務アル者ニ尋問シ船内ヲ巡視スヘシ

二 船内巡視ノ上傳染病患者若クハ死者アルカ又ハ消毒(船舶消毒並物品消毒等ヲ總稱ス)ノ必要ヲ認ムルトキハ瀛笛ヲ以テ各科ニ信號スヘシ

但シ患者ハ船舶檢査主任醫官ニ於テ診察ノ上避病院ニ送ルモノト疑症室ニ送ルモノトヲ區分シ入院通知書ヲ作り病床日誌アル者ハ之ヲ添フヘシ

三 前號ノ患者、死者及ヒ消毒ヲ要スヘキ物品アルトキハ之ヲ運搬科甲號ニ其消毒スヘキ船内ノ部分ハ之ヲ船舶消毒科ニ移牒スヘシ

但消毒ヲ要スヘキ物品ニシテ患者ノ携帶品死者ノ遺物ニ係ルモノハ之ヲ調査シテ目錄ヲ添フヘシ

四 患者ノ携帶品死者ノ遺物中其貴重ナルモノハ船長(若クハ明治廿八年陸軍省令第六號第廿一ノ明告書ニ連署スヘキ職務アル者若クハ隊長)立會ノ上調査シ別ニ目錄ヲ作り捺印セシメ之ヲ檢疫所長ニ差出スヘシ但シ軍人軍屬ノ携帶品若

クハ遺物ニシテ別ニ成規ニ據リ取扱フヘキモノハ此限ニ非ラス其消毒ヲ要ス
 ルモノハ其手續ヲナスコト勿論タルヘシ
 五消毒後船舶消毒科及ヒ他ノ各科ヨリ其完了ヲ通牒シ來ルトキハ更ニ船内ヲ巡
 視シ異狀ナキコトヲ認メタル上甲號檢疫證書(第二號書式)ヲ船長ニ交附シ進航
 ヲ許可スヘシ

六檢疫停船隔離碇泊ヲ命シタル船舶ハ時々之ヲ巡視スヘシ若シ明治廿八年陸軍
 省令第六號第三十ノ場合ニ在テ出航ヲ許ストキハ乙號檢疫證書(第三號書式)ヲ
 船長ニ交付スヘシ

第三條 運搬科ニ於テ患者、死者及ヒ消毒品ヲ運搬スル順序左ノ如シ

一船内ノ患者ハ之ヲ避病院ニ其死者ハ之ヲ屍室ニ移シ其携帯品若クハ同室健康
 者ノ携帯品ニシテ消毒ヲ要スルモノハ其藥物消毒ニ付スヘキモノト熱氣消毒
 ニ付スヘキモノト及燒却スヘキモノトヲ區分シ各符號(藥若クハ熱若クハ燒及
 消毒濟屈先)ヲ付シ次ノ各項ニ示ス所ノ手續ヲナスヘシ
 患者ノ携帯品(死者ノ遺物)ニシテ藥物消毒若クハ熱氣消毒ニ付スヘキ者ハ先ツ

之ヲ未消毒倉庫ニ移シ後藥物消毒科熱氣消毒科ノ甲號ニ送付スヘシ其燒却ニ
 付スヘキモノハ直ニ燒却科ニ送付スヘシ

船内ニ患者若クハ死者アリテ之ト同室セシ健康者ノ携帯品ニシテ消毒ヲ要ス
 ヘキモノハ其種類ニ從ヒ消毒符ヲ附シ之ヲ熱氣消毒ノ假物置(即熱氣消毒科ノ
 甲號)若クハ藥物消毒室(即藥物消毒科ノ甲號)ニ交付スヘシ其燒却スヘキ携帯品
 ハ之ヲ前項ノ物品ト共ニ燒却科ニ送付スヘシ

二患者ノ排泄物並ニ之ニ汚染シタル物品殊ニ燒却スヘキモノハ十分ノ消毒藥ヲ
 濯キ之ヲ「ブリキ」罐中ニ入レ運搬人夫ヲシテ送付セシム可シ若シ其物肺大ニシ
 テ「ブリキ」罐中ニ入ル、能ハサルモノハ消毒藥ヲ濯キ繩ヲ以テ纏括スル等ノ方
 法ニ依リ傳染ノ虞ヲ避ケ運搬セシムヘシ

三第一號ニ於テ區分シタル藥物消毒及ヒ熱氣消毒ニ付スヘキ物品ニシテ患者若
 クハ同室健康者ノ携帯品ニ係ルモノハ切符ヲ渡シ置キ消毒了ルノ後該切符引
 換ニ各本人ニ交付スヘシ

四燒却ニ付スヘキ物品ヲ燒却科ニ送ルニハ左ノ燒却品傳票ヲ用ヒ通報ノ用ニ供

スヘシ

赤紙(直ニ焼却ニ付スヘキモノ)

第 號

一何々

一何々

見積代價何圓何錢〔不明〕

第 號 檢疫官 認印

所有主隊號姓名

燒却品 官有 私有

一何々 何枚

一何々 何本

右本人承諾

見積代價何圓何錢〔不明〕

白紙(未消毒倉庫ニ送り一應所長ニ報告スヘキモノ)

第 號

一何々

一何々

見積代價何圓何錢〔不明〕

第 號 檢疫官 認印

所有主隊號姓名

燒却品 私有

一何々 何枚

一何々 何本

右本人不承諾

見積代價何圓何錢〔不明〕

五前項ノ燒却傳票ヲ附シタル物品ニシテ本人不承諾ノモノハ直ニ燒却科ニ送ラ

スシテ之ヲ未消毒倉庫ニ送り其由檢疫所長ニ報告シ其指揮ヲ待ツヘシ

六消毒中頓ニ傳染病患者ヲ發生シ運搬ノ必要ヲ報シ來ルトキハ直ニ患者並ニ消

毒スヘキ物品ノ運搬ヲナスヘシ

第四條 藥物消毒科ニ於テ病毒汚染若クハ其疑アル物品ニシテ熱瀝消毒若クハ燒

却ニ付ス可ラサルモノ、藥物消毒ヲ施行スル順序左ノ如シ

一藥物消毒ニ於テ藥物ノ溶解法、用法、分量等ハ別ニ定ムル所ノ消毒心得ニ據ル

二假物置ヨリ送付シ來ルモノハ至急ノ消毒ヲ要スル物品ナルヲ以テ速ニ消毒ノ

手續ヲ爲スヘシ

三未消毒倉庫ニ受附ケタル物品ハ消毒室ノ繁閑ヲ掛リ順次消毒ヲ施行シ了ルト

キハ之ヲ運搬科乙號ニ通牒シテ既消毒倉庫ニ運搬セシムヘシ

第五條 熱瀝消毒科ニ於テ病毒汚染若クハ其疑アル物品並ニ健康者ノ着服ノ熱瀝

消毒ヲ施行スル順序左ノ如シ

一熱瀝消毒ニ於テ瀝罐並ニ消毒房ノ用法ハ別ニ定ムル所ノ消毒心得ニ據ル

二熱瀝消毒ニ付スヘキ物品ヲ受クルトキハ甲號ニ於テ取り纏メ之ヲ蒸籠ニ積ミ消毒房ニ輸入シ一定時間ヲ經テ消毒ヲ了ルトキハ鈴ヲ鳴シテ之ヲ乙號ニ報スヘシ

三乙號ニ於テハ甲號ヨリ消毒濟ノ報アルトキハ消毒房ヨリ蒸籠ヲ輸出シ其中ニ積ミタル物件ハ次ノ各項ニ示ス所ノ手續ヲナスヘシ
健康者ノ着服ハ之ヲ着衣室ニ送付ス

假物置ヨリ受ケタル物品ハ直チニ運搬科ノ乙號ニ通牒シテ之ヲ届先ニ運搬セシム

四未消毒倉庫ニ受附ケタル物品ハ熱瀝消毒ノ繁閑ヲ斟リ順次消毒シテ運搬科ノ乙號ニ通牒シ之ヲ既消毒倉庫ニ運搬セシム

第六條 燒却科ニ於テ消毒ノ上再ヒ用ニ供スヘカラサル物品ヲ燒却スル順序左ノ如シ

一運搬科甲號ヨリ運搬シ來ル燒却品ハ之ニ添付シタル傳票ト現品ト照合シタル後之ヲ燒却スヘシ

但照合ノ際傳票中本人不承諾ノモノ及傳票ナキモノヲ發見シタルトキハ之ヲ未消毒倉庫ニ回附シ其由ヲ檢疫所長ニ報告シテ指揮ヲ待ツヘシ

第七條 沐浴科ニ於テ健康者ヲ沐浴セシメ着服ヲ消毒スル順序左ノ如シ

一軍隊ノ健康者ハ大約一個中隊ヲ一組トシ士官若クハ下士ノ指揮ニ依テ順次上陸セシメ點檢所ニ於テ番號ヲ附シタル指環及番號札ヲ交附スヘシ

軍人以外ノ者ニ在テハ檢疫ニ從事スル下士上等兵ヲシテ上陸其他ノ指揮ヲナサシム其他ノ手續前項ニ同シ

點檢所ニ於テ渡シタル番號指環ハ消毒ノ全經過ヲ了リ消毒所ヲ退出スルノ際之ヲ返付セシムヘシ

二物品預所ニ於テ軍人ハ指環ノ番號ノ順ニ從ヒ順次武裝ヲ解キ之ヲ預クヘシ
軍人外ノ者ニ在テハ自カラ携帯品ニ別ニ備フル番號札ヲ附シ之ヲ預ケ置クヘシ

預リタル物品中藥物消毒ヲ要スヘキモノアルトキハ藥ノ符ヲ附シ直ニ之ヲ藥物消毒室ニ送ルヘシ

貴重品ハ物品預所ニ備フル所ノ各番號ヲ附シタル貴重品預匣ニ入ルヘシ
 三前號ノ手續ヲ了リタル者ハ待合室ニ入ルヘシ其待合室ニハ理髪所ヲ附スルヲ
 以テ斬髮ヲ望ムモノハ番號ノ順次ニ從ヒ理髪セシムヘシ
 四浴室ノ準備了ルトキハ鈴ヲ以テ待合所ニ報ス指環番號ノ順序ニ從ヒ一回七十
 人ヲ一組トシテ浴室ニ入ラシメ其入口ニ於テ手拭ヲ交附ス
 五入浴前脱シタル着服ハ番號札附ノ紐ヲ以テ自ラ之ヲ纏括シ置クヘシ入浴ノ時
 間ハ大約二十分時トス時間了ルトキハ鈴ヲ以テ之ヲ報ス
 六浴後ハ消毒シタル浴衣ヲ貸與スルヲ以テ之ヲ着シ休息室ニ入り着服ノ消毒了
 ルヲ待ツヘシ
 七着服ノ消毒ヲ了リ熱瀉消毒科乙號ヨリ之ヲ着衣室ニ送付シ來リ其排列ヲ了ル
 トキハ鈴ヲ以テ之ヲ報スヘシ
 八休息室ニ在テ鈴ヲ聞クトキハ着衣室ニ到リ指環番號ニ照合シ着服シ了ルトキ
 ハ順次物品渡所ニ到リ軍人ハ武裝ヲ整ヘ軍屬其他ノ者ハ預品ヲ受取り最初點
 檢所ニ於テ受取りタル番號札ノ紐ヲ指環ニ貫キ纏メテ之ヲ掛員ニ渡シ退出ス

ヘシ

九貸付スル浴衣ハ一回毎ニ消毒シ時々洗濯シテ常ニ清潔ニ保タシメ且之ヲ浴室

ニ排列スル等着衣室擔當者ニ於テ取扱フヘシ

第八條 船舶消毒科ニ於テ船舶並檢疫所内ノ消毒清潔法ヲ施行スル順序左ノ如シ

一船舶若クハ檢疫所内各室ノ消毒ニ於テハ藥物消毒及清潔法ヲ施行スヘシ之ニ
 要スル藥物ノ溶解法用法分量消毒用器具並其使用法等ハ別ニ定ムル消毒心得
 ニ據ル

二船舶檢査科ヨリ船舶消毒ノ必要ヲ報シ來ルトキ又檢疫所内ニ於テ患者發生シ
 消毒ノ必要ヲ報シ來ルトキハ直ニ之ニ應シ所定ノ消毒法ヲ施行スヘシ

三船内ノ裝飾及檢疫所内ノ雜作物件ニシテ假令消毒ヲ行フモ再ヒ使用ノ目的ナ
 キコトヲ認メタルモノハ燒却ノ手續ヲナスヘシ

第九條 停留舎ニ於テ明治廿八年陸軍省令第六號第廿四ニ該當スルモノヲ五日間
 宿泊セシメ其異狀ナキヲ認メ退舎セシムル順序左ノ如シ

一停留舎ニ宿泊スヘキモノハ浴後消毒シタル浴衣ヲ貸與シ直ニ停留舎ニ到ラシ

ム但シ點檢所ニ於テ與ヘタル番號ヲ彫リタル指環ハ五日間ノ後退舍スルノ際返付セシム可シ

二 停留舎ニ於テハ毎朝擔任醫官患者ヲ診斷シ時々舎内ヲ巡視シテ宿泊者ノ狀況ニ注意ス可シ臨時發病殊ニ下痢症ヲ發シタル者アル片ハ速ニ醫官ノ診斷ヲ受ケシム可シ

傳染病若クハ其疑似症ニ罹リタル者アル片ハ速ニ避病院又ハ疑症室ニ送り舎内及諸器具ニハ成規ノ消毒法ヲ施行ス可シ

三 入舎後五日ヲ經異狀ナキヲ以テ退舍セシムル者ニハ既消毒倉庫ヨリ着服携帶品ヲ受取り宿泊者ノ指環番號ニ照シ之ヲ各自ニ交付シ指環ヲ納付セシメテ退舍ヲ許可ス此番號指環ハ着服携帶品ニ付シタル番號札ト共ニ纏メテ之ヲ檢疫所總務科ニ送付ス可シ

四 滿期退舍ノ者軍役人夫ナル時ハ陸軍省出張員ニ引渡ス可シ

五 入舎中貸與シタル消毒衣ハ毎回納付後之ヲ消毒シ且時々之ヲ洗濯ス可シ

六 入舎中傳染病患者發生シタル片ハ更ニ其當日ヨリ五日間入舎ヲ繼續シ最後ニ

患者ヲ發シタル日ヨリ五日間ヲ經テ患者ナキニ至レハ退舍ヲ許ス但シ停留舎内ニ於テ續々多數ノ傳染病患者ヲ生シ傳播ノ恐アル片ハ停留舎宿泊者ノ一部ヲ他ニ移ス等臨機ノ處分ヲ爲ス可シ

第十條 第二條第三號ニ示ス所ノ携帶品及遺物ハ檢疫所長ヨリ目錄ヲ添へ避病院長ニ交付シ成規ノ處分ヲ求ムヘシ

第十一條 前條ノ物品中既消毒倉庫ニ收容シタルモノヲ避病院入院患者ニ交付スル手續ハ檢疫所長避病院長合議ノ上之ヲ定ムヘシ

第十二條 明治廿八年陸軍省令第六號第十八以外ノ患者ニシテ入浴消毒ヲ行フコト能ハサルモノハ消毒衣ニ着換ヘシメ其着服ト携帶品ハ一般ノ消毒法ニ從ヒ之ヲ施行スヘシ

第十三條 健康者ト雖モ負傷ノ爲メ起居ノ自由ヲ失フ者ハ之ヲ他ノ健康者ト區分シ特ニ擔架ヲ以テ送り入浴消毒ヲ行ハシムルヲ要ス

第十四條 小蒸氣船及艇ノ配置監督ハ總務科ノ擔任トス其配置後各科ニ屬スル艇ハ各科主任檢疫官ニ於テ取扱ヲ定ムヘシ其大要ハ左ノ各項ニ據ルヘシ

- 一 小蒸溜船ハ船舶ノ検査、通信及舛ノ引舟ニ用ヒ舛ハ人員物品ノ運漕ニ用ユルモノトス
 - 二 小蒸溜船ニハ檢疫ヲ受クヘキ者及其携帶品等ハ消毒濟ニ係ルモノト雖モ乗船若クハ搭載セシメサルヲ常トス
 - 三 舛ハ未消毒ノ人員物品ヲ搭載スルモノト既消毒人員物品ヲ搭載スルモノトヲ區別シ混用セシム可ラス其未消毒人員物品ノ運漕ニ供シタル舛ハ其事業ヲ了リタル毎ニ清潔消毒法ヲ施行スヘシ
 - 四 舛ハ小蒸溜船ヲ以テ引カル、場合ト否トヲ問ハス患者死者ヲ運搬スルモノハ晝間ハ黃旗ヲ掲ケ夜間ハ紅色ノ提燈ニ檢疫ノ二字ヲ黑書シタルモノヲ用フヘシ
 - 未消毒ノ健康者及物品ヲ運搬スルモノハ晝間ハ黃白旗夜間ハ前項ニ同シキ提燈ヲ用フヘシ
- 第十五條 兵站部ト臨時陸軍檢疫所トノ關係及ヒ物品受授ノ手續等ハ別ニ定ムル所ニ據ルヘシ

(第一號書式)

(第一號書式)

明 告 書

何々丸船長何
乗組醫員何 某某

1	船種及噸數	
2	發航ノ地名日時及航路寄港ノ地名並其發着日時	
3	發航以來傳染病患者死者ノ有無(其發熄ノ日時並人員)	
4	着港ノ際現在患者又ハ死者ノ有無(其人員)	
5	寄港ノ際上陸ノ地名並交通セル船名及其概要	
6	他港ニ於テ船舶検査及消毒法隔離碇泊若クハ檢疫停船ヲ受ケタル有無其日時場所	
7	曾テ船中虎列刺病患者吐瀉病ノ有無及其狀況	
8	乘員	將校及高等官
		下士判任官卒
9	船員	其他
		船長運轉師機關師事務員等 火夫水夫人夫其他
10	飲料水ヲ汲入レタル地名	
11	食料薪炭ヲ積入レタル地名	
12	入港前海洋ニテ「ビルジ」腔ヲ洗滌シ來リシヤ否ヤ	
13	搭載獸畜ノ種類員數及搭載セシ地名	
14	積荷ノ種類及搭載セシ地名	
備考	(傳染病患者船中ニ發シタル際第一ノ處置ヲ施シタル景況及其發病原因ト信スル件等ハ必ス欄中ニ記載スヘシ)	

年 月 日

輸送指揮官官姓名 ㊦

監督將校官姓名 ㊦

隊付醫官官姓名 ㊦

〔注 意〕

此明告書ハ檢疫官船舶ニ臨檢ノ際用紙ヲ交付シテ記入セシムル規定ナレド事務ノ便宜ヲ計リ預メ用紙ヲ各船舶ニ配付シ置ク見込ナリ

第十六條 檢疫所内何レノ場所ヲ問ハス發病者アリタルトキハ運搬科及船舶消毒科(室内消毒)ニ急報スヘシ

第十七條 下士卒ノ服務及休憩ハ喇叭ヲ以テ報道ス 喇叭譜服務ハ氣ヲ付 服務ノ報アルトキハ下士上等兵各其部下ノ兵卒ヲ率キテ服務ノ用意ヲ爲シ上官ノ指揮ヲ待ツヘシ

第十八條 檢疫中各科分擔者ヲ呼フニハ某科某號ノ當番ト稱スヘシ分科分擔ノ下士卒ニハ胸部ニ各科號ノ記章ヲ佩ハシム

第十九條 檢疫所内各室ニハ消毒藥ヲ備ヘ置キ急時ニ臨ミ第一着ノ消毒法ヲ施行シ得ヘキ準備ヲナシ置クヘシ

第二號書式

(甲號)

檢疫證書

丸船長 何 菜

九八明治二十八年陸軍省令第六號ニ據リ本年月日檢査ノ上消毒ヲ了ス依テ他

ノ港灣ニ進航シ陸地又ハ船舶ト交通シ及乗船人員ノ上陸並積荷ノ陸揚ヲ許可ス

何地檢疫所長	官	姓	名	〇
全檢疫官	官	姓	名	〇
全檢疫官	官	姓	名	〇

第三號書式

(乙號)

檢疫證書

丸船長 何 某

九ハ明治二十八年陸軍省令第六號ニ據リ本年月日檢査ノ上消毒ヲ施行ス檢査ノ日ヨリ起算シ五日 何月何日ヨリ 何月何日迄 ノ間更ニ虎列刺患者ヲ發生セサル時ハ消毒完了ノ効アルモノトス

何地檢疫所長	官	姓	名	〇
全檢疫官	官	姓	名	〇
全檢疫官	官	姓	名	〇

陸軍省告示

陸軍省告示第四號

明治廿八年陸軍省令第六號臨時陸軍檢疫部檢疫規則第十一ニ依リ左ノ各地ニ臨時陸軍檢疫所ヲ置キ開廳ノ期日左ノ通定ム

明治廿八年五月十五日

陸軍大臣伯爵 山縣 有朋

位 置	名 稱	開廳ノ期日
廣島縣安藝郡似島	似島臨時陸軍檢疫所	明治廿八年六月一日
山口縣豐浦郡彦島	彦島臨時陸軍檢疫所	六月五日
大坂府西成郡櫻島	櫻島臨時陸軍檢疫所	六月一日

陸軍省告示第六號

陸軍ノ檢疫ヲ受クヘキ船舶ニシテ臨時陸軍檢疫所ノ設置アル港内ニ歸着シ未タ檢疫ヲ了ラサルモノハ晝間ニ在テハ黃白ノ旗章 圖ノヲ掲揚シ夜間ハ前櫓ニ紅綠二燈ヲ上下ニ連掲スヘシ

明治廿八年五月二十四日

陸軍大臣伯爵 山縣 有朋

黄
白

廿八年六月一日檢疫所開始ノ告示

朕臨時陸軍檢疫所ニ於テ檢疫ニ從事スル軍人軍屬ノ給與ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十八年五月二十八日

陸軍大臣伯爵 大山 巖

勅令第六十七号

臨時陸軍檢疫所ニ於テ檢疫ニ從事スル軍人軍屬ノ給與ハ陸軍戰時給與規則第七條ノ手當ヲ除ク外臨戰合圍地境內ニ在ル者ノ例ニ依ル

船舶消毒ニ關スル達并ニ照會

送乙第二五一二號

陸軍大臣ヨリ臨時陸軍檢疫部ヘ達

別紙甲号之通り内務大臣照會ニ對シ乙号之通り及回答候就テハ借上船舶所有者ヘ丙号之通り相達候條船主ヨリ申出候節ハ臨時陸軍檢疫規則第十八ニ掲グル病者ア

リシ船舶ニ限り最寄陸軍檢疫部ニ於テ便宜酌量ノ上消毒法施行方取計ヒ其旨本省
へ報告スル儀ト心得ヘシ

内務大臣ヨリ陸軍大臣へ照會

臨檢甲第四一號

借上等ニ係ル御省用船中追々其使用ヲ解カレ候趣ニ付テハ右船舶ニ虎列拉病者ア
リシト否トヲ問ハス此際大消毒ヲ施行スル方安全ト存候ニ付彌用船トシテノ使用
ヲ廢セラル、ニ方リテハ其船舶ニ大消毒ヲ施行相成候様致度此段豫メ及御照會候
也

明治廿八年五月廿九日

内務大臣

陸軍大臣宛

陸軍大臣ヨリ内務大臣へ回答

送甲第一一九四號

臨檢甲第四一號ヲ以テ當省借上船舶ハ用船トシテノ使用ヲ解除スルニ當リ虎列拉
病者アリシト否トヲ問ハス大消毒法施行方之儀ニ付御照會之趣了承右ハ虎列拉病
者アリシ船舶ハ勿論其他臨時陸軍檢疫規則第十八ニ掲グル病者アリシ船舶ニハ其
都度消毒法施行致來候間特ニ虎列拉病ノ有無ニ拘ハラス殊更大消毒法施行ヲ要セ
スト存候就而ハ右檢疫規則第十八ニ掲グル病者アリシ船舶ニ限り解除ノ際ハ必要
ト認ムルモノハ便宜酌量ノ上消毒法施行可致候條右様承知相成度此段及回答候也
廿八年七月五日

陸軍大臣

内務大臣宛

陸軍大臣ヨリ船舶各所有者へ達

送甲第一一九五號

七月五日

陸軍借上々船舶中宇品運輸通信部ヨリ解雇ノ通告ヲ受ケタル者ハ船舶消毒等ノ都
合モ有之候ニ付最寄陸軍檢疫所へ申出相當ノ區處ヲ受ケ其旨陸軍省へ届出候儀ト
心得ヘシ